

## 第6回ポートランド調査「ポートランドプラン」

日時：平成25年8月22日（木）9:00am～11:00am

場所：オレゴン州ポートランド市 1900 building

### ●ポートランド・プランとは

ポートランド・プランは、ポートランド市が直面する、収入格差の拡大、高失業率、高等学校卒業率の低下、環境問題等の重要課題に対処するために立案された長期戦略計画である。25年目標と5年ごとの行動計画が設定され、その中で、市全体として達成すべき目標と市内の地域別具体的目的が明記されている。このプランは市が将来取り組むべきプログラムと政策の方向性を示す青写真である。ポートランド・プランは、コミュニティ、ビジネス、ポートランド市他、20を超える公的機関が2009年から2012年まで、3年間にわたって連携して策定にあたった（PSU2013：p.1）。

### ●策定過程

市はワークショップや市民フェア、コミュニティグループとの会合やアンケート調査等を用い、市民を巻き込んできた。また、市は従来歴史的にも過小評価され、差別を受けてきた少数派の人々を積極的に巻き込み、ポートランド・プラン策定プロセスに関わっていくことができるようにするための特別なアウトリーチを行った。ポートランド・プランの立案にあたっての一番の焦点は「公平性」であり、目標・目的設定プロセスの成果を測る主要な基準とされた（PSU2013：p.1）。

### ●ビジョンづくり

2005年、ポートランド市長トム・ポッターはVision PDXを立ち上げた。Vision PDXとは、向こう20年間を見越したポートランド市のビジョンづくりを2年かけてコミュニティを巻き込みながら行ったプロジェクトである。それまでの行政のやり方を根本的に見直し、より市民の意向に沿った政府を作るために行われた。市長は、ポートランド市民が社会的権限を持って「テーブルにつき」、コミュニティが直面する諸問題の解決にともに取り組むことを企図した（PSU2013：p.1）。

### ●市民に対する4つの質問と未来へのビジョン

市民には以下の4つの質問を中心に意見を出してもらった。これらの質問は9か国語に訳され、多くの市民の意見を募る努力がなされた。

- ・ポートランドのどこを一番評価していますか。そしてそれはなぜですか。
- ・今現在、ポートランドに何が一番変わってほしいですか。
- ・ポートランドの20年後の未来を想像してみてください。市に対するあなたの全ての希望が実現されたとします。今との違いは何でしょうか。どんな風に私たちのまちは良く

なっていますか。

- ・あなたが今描いた理想のポートランドが現実のものとなるために、私たちが今できる一番大事なことは何でしょうか。

集められた市民の意見は、ビジョン委員会のボランティアと市職員が検討・分析し、その結果は「ポートランド 2030：未来へのビジョン」という報告書としてまとめられた。市民が共有する価値観と未来への指針が、市の構築、経済、環境、教育、社会といった要素ごとにまとめられた (PSU2013:p.2)。

#### ●ステークホルダー（主要関係者）

##### ①ポートランド市都市計画および持続可能性対策局（BPS）

健全なコミュニティづくり、市民参加、低炭素型の生活様式を促進することを目標としている。市民との信頼関係を確立し、人間関係を活用しながらポートランド・プランの周知活動を展開し、市民参加推進に貢献した。BPS は一貫して市の他の部局や関連行政組織などを巻き込み、協力しながらポートランド・プラン策定を進めた。

##### ②公的機関

ポートランド公共住宅局、ポートランド学校区、ネイバーフッド・インボルブメント局など総計 20 を超える公的機関がポートランド・プランに関与した。

##### ③コミュニティ参画委員会（CIC）

2009 年 7 月に 16 人のメンバーで結成された。ポートランド・プランの包摂的遂行をめざし、ポートランドの多様な文化コミュニティの目や耳として情報を集め、それぞれのコミュニティでの情報周知推進のための役割を務めた。CIC は執行、アウトリーチ、コミュニケーション、ワークショップ・デザインという 4 つの分科委員会に分かれ、市職員の仕事を支援した (PSU2013 : p.6)。

#### ●コミュニティ組織

ポートランド市は、コミュニティ組織である「多様性と市民のリーダーシップ・プログラム」(DCL) と DCL に属する 5 つのコミュニティ組織（異文化組織センター、移民と難民のコミュニティ組織、ラテン系市民ネットワーク、ネイティブ・アメリカン・ファミリー・センター、ポートランド都市同盟）と緊密な協力関係を結んだ。それぞれのコミュニティの文化的背景に適切なアウトリーチ活動を実施した。DCL の諸組織に加えて、高齢者コミュニティや芸術コミュニティ、LGBTQ コミュニティもポートランド・プランの展開に携わった (PSU2013 : p.6)。

#### ●ビジネス

ビジネスコミュニティも様々な方法（アンケート調査、ワークショップなど）でポートランド・プランに携わった (PSU2013 : p.6)。

### ●市民参加の目標と成功の尺度

ポートランド・プランのプロセスは、CIC によって設定された5つの目標に基づいて、定期的に評価された。5つの目標は次のとおり。

- ①現存する信頼関係に基づくこと
- ②広く多様なグループを教育活動と情報提供を通じて巻き込み、また関心を抱く全ての人々に対して十分な教育活動を行い、人々が有意義に参画できるよう努力すること
- ③複数の会合の場を設け、様々なアプローチを取り入れることで、コミュニティの参画と巻き込みを推進すること
- ④可能な限り多くの人を巻き込むこと
- ⑤ポートランド・プランの展開、実行のプロセスを通じて、フィードバックを募り、継続的な巻き込み努力を行うことで、コミュニティのメンバーが話を「聞いてくれている」と感じるようにすること

何がうまくいっていて、何が改善を必要とするかが、市民参加経過報告書にまとめられ広く一般の人々に周知された（PSU2013：p.7）。

### ●ポートランド市市民参加の7つの原則と目標

CIC の支持のもと、2010年8月にポートランド市議会によって採択された。一貫して効果的で質の高い市民参加を行っていく上で必要な、公選議員や市職員などへの指針である（PSU2013：pp.12-13）。

- ①パートナーシップ
- ②早期段階からの参加
- ③信頼関係とコミュニティのキャパシティー構築
- ④包摂性と公平性
- ⑤質の高いプロセスのデザインと実行
- ⑥透明性
- ⑦市民参加促進責任

### ●ポートランド・プランとポートランド総合計画

ポートランド・プランは、市議会決議として採択されたものであり、行政の方向性を示す指新ではあるが、法的な拘束力はない。対して、ポートランド総合計画は法的拘束力のある条例として、市の目標と政策を定めたものである。同計画は、ポートランド・プラン策定にあたって集めた情報と市民を巻き込むプロセスで学んだ教訓に基づきつくられている。同計画が採択されると、同計画に記載の政策が法的拘束力をもち、この先20年間の土地利用、交通計画、設備投資を規定するものとなる（PSU2013：p.9）。

## ●現地ヒアリングを終えて

25年先を見据えた市の総合計画の更新作業を行っている最中であった。見直しにあたっては、見直し素案（30%DRAFT）を早期に公表し説明会を開催するとともに、分かりやすい資料の作成に配慮している。様々なステークホルダーを設定し、多くの段階を踏んで市民の期待感も高まっているとのこと。この作業のプロセスを複雑にしているのは、政治家が3回も交代していることも要因であるとのこと。多様なコミュニティとの話し合いの中では、自分を見つめ直すことが多く、基本に戻って学び直し、練り直すことの連続であること、また、この仕事において成功したと思うことは、プランの素案から決定したプランの内容がだいぶ変わったことであるとの言葉が印象的であった。そして、仕事の行きつくところは人間関係であり、とにかく続けていくことだと言う。仕事の評価は、目には見えないが人間関係と市民の意識の高まり、長期的に見て行政に対する信頼関係ができたこと。また、子どもの意見を取り入れることもできたとのこと。

プラン素案の段階から住民意見を確認していく計画づくりのしくみは、日本の型と似ているようで異なっていた。CICが設定した市民参加の5つの目標に沿って意見を聞く対象をきめ細く設定し、相手に合わせた意見集約をじっくりと行うことや情報の質を重視している点が大きく異なる。

また、職員の仕事に対する真剣な思い、悩む気持ちに触れることができ、私自身の働き方にもとても参考になった。



以上

## <引用資料>

PSU2013 Amanda Shannahan, Dan Vizzini, Masami Nishishiba, Xiaomei Wang, Saumya Kini, and Yachiyo Iisako 「ポートランド・プランー都市の多様性を反映した包括的戦略計画ー」 2013年